

着付け職種技能検定 2級学科試験

令和6年6月11日（火）

一般社団法人全日本着付け技能センター

問題1. 服飾の歴史について、下記の中から適当なものを1つずつ選び、記号を記入しなさい。

1. 昭和時代

2. 江戸時代

3. 平安時代

ア. 貫頭衣

イ. 十二単

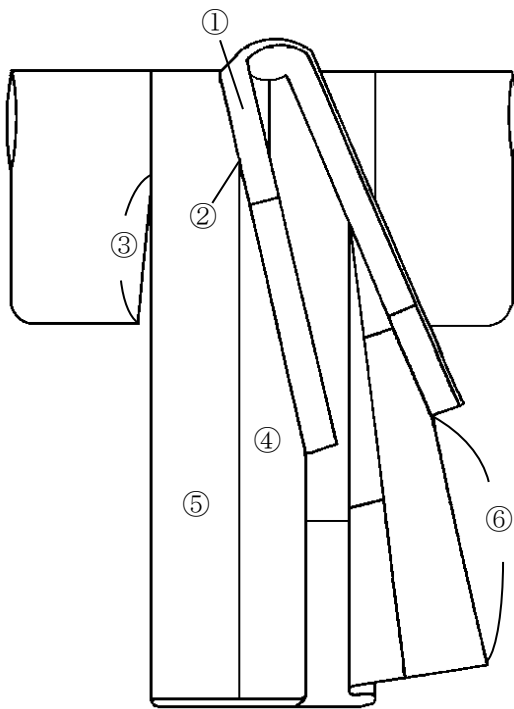
ウ. 名護屋帯

エ. 友禅染

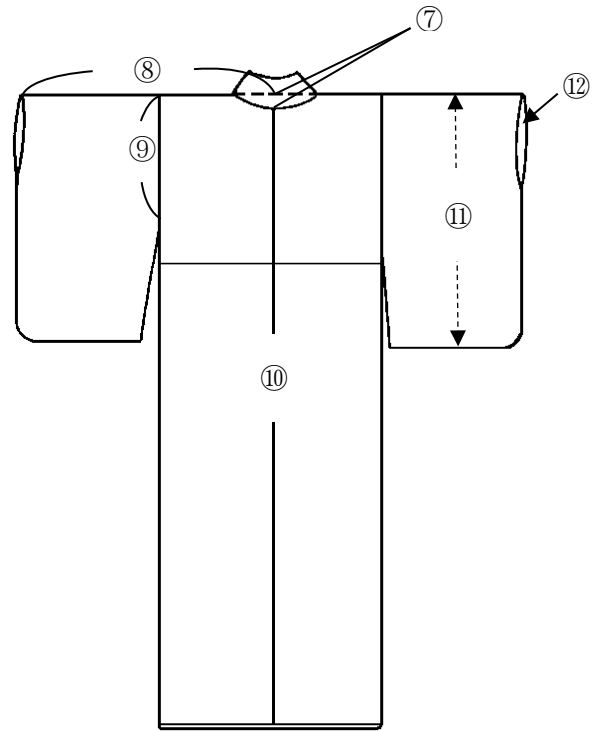
オ. 訪問着

問題2. 次の着物の各部位の名称について、それぞれの語群の中から適当なものを1つずつ選び、記号を記入しなさい。

I. 女物衿(前)



II. 女物衿(後)



[語 群 I]

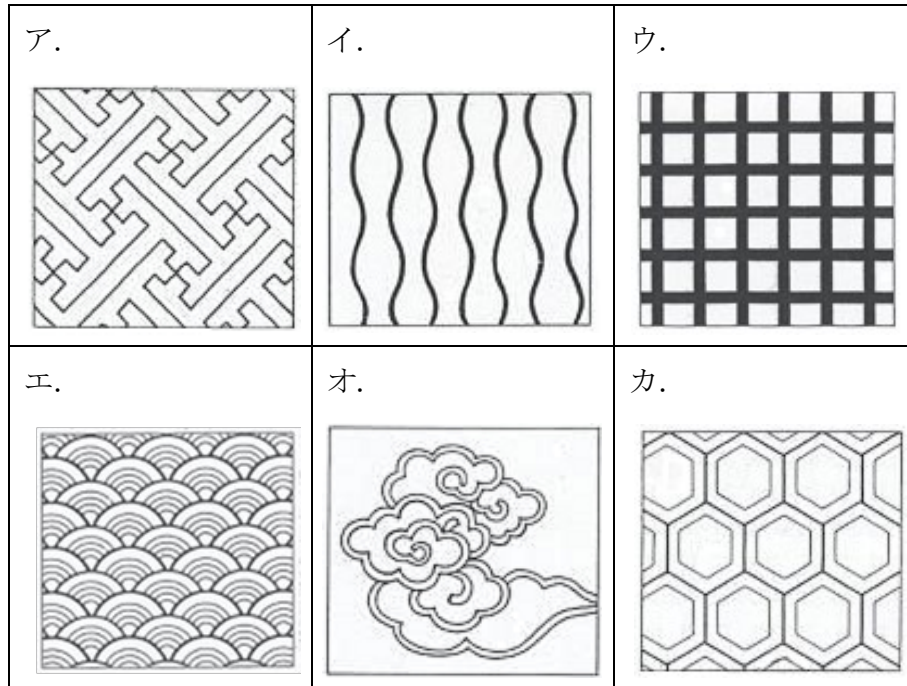
- ア. 振り イ. 衿 ウ. 共衿 (掛衿)
 エ. 衿下 (棲下) オ. 身八つ口 カ. 抱幅
 キ. 衿下り ク. 剣先 ケ. 前身ごろ

[語 群 II]

- コ. 袖口 サ. 袖丈 シ. 袖付
 ス. 後身ごろ セ. 背縫い ソ. くりこし
 タ. 脇縫い チ. 袖幅 ツ. 衿

問題3. 次の代表的な古典文様の名称について、下記の中から適当なものを1つずつ選び、記号を記入しなさい。

- | | | |
|--------|--------|-------|
| 1. 青海波 | 2. 紗綾形 | 3. 亀甲 |
| 4. 格子 | 5. 立涌 | 6. 瑞雲 |

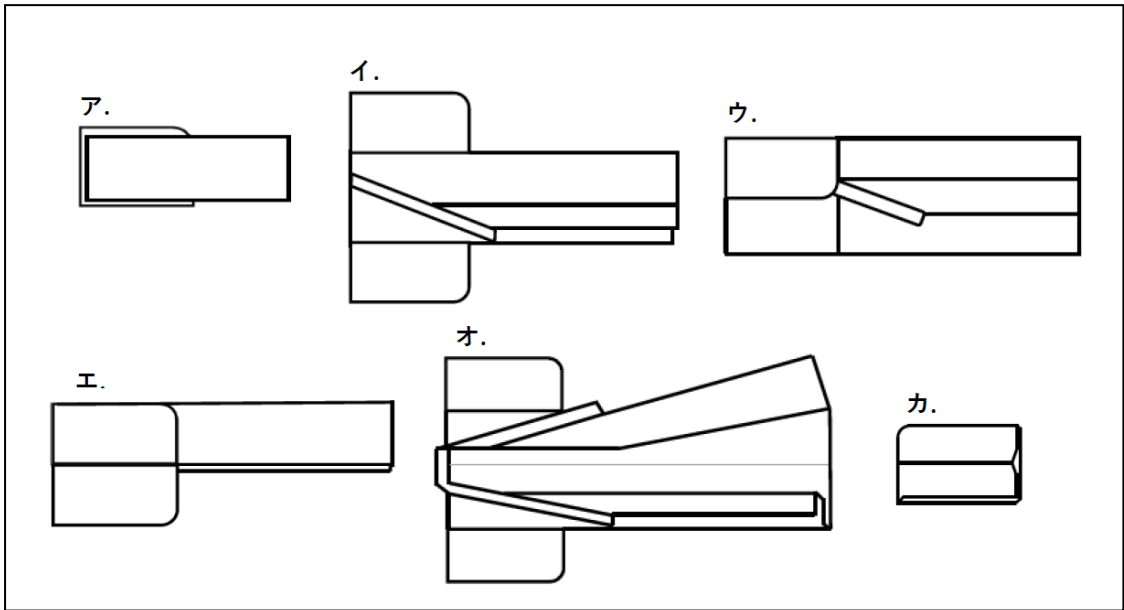


問題4. 次の男女の着物の違いを述べた文章について、正しい方を選び記号を記入しなさい。

1. 女物の着物には身八つ口が (ア. あり イ. なく)、(ウ. 振り エ. 人形) がある。
2. 男物の着物にはくりこしが (ア. あり イ. なく)、(ウ. 棒衿 エ. 広衿) である。
3. 男物の着物はおはしよりが (ア. あり イ. なく)、(ウ. 身丈 エ. 着丈) に仕立ててある。

問題5. 長着（本だたみ）のたたみ方について、下記の図の中から必要なものを選び、正しい順序になるように並べて、記号を記入しなさい。

(1) → (2) → (3) → (4)



問題6. 次の織物について、あてはまる説明文を下記の中から1つずつ選び、記号を記入しなさい。

1. 綸子 2. 紗 3. 塩瀬

ア. 羽二重地の厚い絹織物。布面によこ畝が現れるのが特徴。
 イ. からみ織りという織り方で、二本のたて糸が一組になって、よこ糸と交差するたびに左右入れ替わってよじれるために、よこ糸とたて糸の間に隙間ができて、仕上がったものは網のように軽くて透かし目ができる。
 ウ. たて糸に撚りのない生糸、よこ糸に撚りの強い生糸を用いて平織にしたのち、特殊な液体に入れて煮て精練して仕上げた絹織物。「しば」という凹凸がある。
 エ. 織ってから精練したもので、光沢がありなめらか。帯地・羽織の裏地などとされる絹の紋織物。

問題7. 次の染めの手法にあてはまるものを下記の中から2つずつ選び、記号で記入しなさい。

1. 先染め
 2. 後染め

ア. 縮緬 イ. 紗 ウ. 絹 エ. 紬

問題 8. 着物の用途、格等に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選び、記号を記入しなさい。

- ア. 大島紬の訪問着は、礼装になる。
- イ. 留袖に合わせる帯は袋帯がよい。
- ウ. 上前の胸に柄があり、前身ごろと衽の柄がつながっているものを付下げ訪問着という。
- エ. 新郎の袴下の帯は、兵児帯をする。
- オ. 小紋に袋帯を合わせると礼装になる。

問題 9. 次の文章のうち正しいものを1つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア. 紬に五つ紋をつけると正式礼装になる。
- イ. 三つ紋は背紋一つと後袖紋二つである。
- ウ. 黒留袖の紋は、五つであれば縫紋でもよい。

問題 10. 次の着物に適した帯を下記の中から選び、記号を記入しなさい。

- 1. 訪問着
- 2. 女物の大島紬
- 3. 男物の浴衣

ア. 兵児帯	イ. 名古屋帯	ウ. 袋帯
--------	---------	-------

問題 11. 次の文章の空欄に最も適当なものを下記の中から 1 つずつ選び、その記号を記入しなさい。

1. (①) は、白の塩瀬が一番格が高く、縮緬より上である。
2. 白に金糸、銀糸の (②) は礼装用として用いられる。
3. 装飾的な意味合いが強い (③) は、絞り、無地などがある。
4. 比翼衿を略したものが (④) で、着物の衿の下にもう一枚重ねる衿のことをいう。

ア. 帯板	イ. 半衿	ウ. 帯締め
エ. 帯揚げ	オ. 裾よけ	カ. 伊達衿

問題 12. 次の着物と小物の合わせ方のうち、正しいものを 2 つ選び、記号を記入しなさい。

ア. 訪問着	—————	帯揚げ (色物)
イ. 色留袖 (染め抜き五つ紋)	—————	帯揚げ (黒)
ウ. 新郎紋服	—————	扇子 (白扇)
エ. 喪服	—————	帯揚げ (色物)
オ. 黒留袖	—————	帯締め (色柄物)

問題 13. 次の着物の着用時季について、() にあてはまる最も適当なものを、下記の中から 1 つずつ選び、記号を記入しなさい。

1. 紬の衿の着物は (①) に着用する。
2. 小紋の単の着物は (②) に着用する。
3. 絹の訪問着は (③) に着用する。

ア. 6月と9月	イ. 10月から5月	ウ. 9月から3月
エ. 7月と8月	オ. 8月のみ	カ. 5月から10月

問題 14. 着物の着付けをするときの心得として、正しいものを2つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア. 身なりは特に注意する必要はなく、素足でもよく、時計やアクセサリ類を外す必要はない。
- イ. 着付けを始める前には丁寧に一礼をする。
- ウ. 着付けをする時のクリップや小物は、着物用がなければ代用品（洗濯ばさみ、生ゴム等）を使用しても良い。
- エ. どのような場所であっても、着物や帯等を汚さないように大切に扱う。
- オ. ひも類は、首や肩にかけて作業をする。

問題 15. 次の記述のうち、正しいものを1つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア. 美容師免許がなければ、有料で着物を着付けることができない。
- イ. 美容師免許を取得しなくても、全国どの都道府県でも美容を業として行うことができる。
- ウ. 美容師免許がなければ、花嫁の結髪・化粧を業として行うことができない。
- エ. パーマネントウェーブ・結髪・化粧等の方法により容姿を美しくすることは、美容師でなくても業として行うことができる。

全日本着付け技能センター

2級学科試験【模範解答】

令和6年6月11日(火)

受験番号	—
------	---

氏名	
----	--

問題1 (各2点)

1 才	2 工	3 イ
-----	-----	-----

問題2 (各2点)

1 ウ	2 ク	3 ア	4 イ	5 ケ	6 工
7 ソ	8 ツ	9 シ	10 セ	11 サ	12 コ

問題3 (各1点)

1 工	2 ア	3 カ	4 ウ	5 イ	6 才
-----	-----	-----	-----	-----	-----

問題4 (各1点)

1	ア	ウ	2	イ	ウ	3	イ	工
---	---	---	---	---	---	---	---	---

問題5 (各2点)

1 才	2 イ	3 工	4 ア
-----	-----	-----	-----

問題6 (各2点)

1 工	2 イ	3 ア
-----	-----	-----

問題7 (各2点)

1	イ	工	2	ア	ウ
---	---	---	---	---	---

問題8 (各2点)

イ	ウ
---	---

※順不同

問題9 (2点)

イ

問題10 (各2点)

1 ウ	2 イ	3 ア
-----	-----	-----

問題11 (各2点)

1 イ	2 ウ	3 工	4 カ
-----	-----	-----	-----

問題12 (各2点)

ア	ウ
---	---

※順不同

問題13 (各2点)

1 イ	2 ア	3 工
-----	-----	-----

問題14 (各2点)

イ	工
---	---

※順不同

問題15 (2点)

ウ
